

# 令和2年度事業報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

## I はじめに

当センターでは、令和2年度事業計画に基づき幸手市をはじめ関係機関のご支援・ご指導のもと、多様な就業形態に対応するとともに、会員・役職員が総力を挙げ事業拡大を図るべく諸施策を講じてまいりました。

令和2年度に於いては、特に会員増強に主眼を置き、広報さつてをはじめとした公共広告媒体等を活用するとともに、センター独自の「I 会員ひとり紹介キャンペーン」の実施や公益財団法人いきいき埼玉の事業による「会員拡大キャンペーン」の実施により、会員の増員を図ることができました。このような取り組みの効果として、令和3年3月31日現在の会員数は444名となり、前年比で約14%の増となっております。会員数の増強により、受託出来る作業の幅が広がり、会員の活躍の機会も拡大したものと考えます。今後も会員の増強とそれに伴う就業機会の拡大に努めて参ります。

こうした中、当センターにおける令和2年度の総契約金額は196,667千円で前年度比8,292千円程度の減となりました。公共からの受注については、契約金額が増となったものの、民間企業並びに家庭からの受注が減少したことが要因となっております。この背景には、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令等に伴い、各種イベントの中止や施設の休館、在宅勤務（テレワーク）等の就業形態の変化などが大きく影響していると考えられます。

なお、派遣契約金額に於いては、前年度比で0.7%の増となり、昨年と同水準を維持することができました。これは就業会員の皆様のご尽力によるものと推察しております。しかしながら、今後におきましては、新型コロナウイルスによる社会経済の混乱や定年延長等、センターにとって危惧される課題が山積しておりますので、今まで以上に就業場所の開拓等を積極的に行う必要があります。

これからも、コンプライアンスに傾注し諸条件の整備を推進するとともに、幸手市をはじめ各種団体との連携強化を図り、地域に根ざした自主的・効果的事業運営を確立し、会員・役職員が基本理念に基づき事業を進め、地域のニーズに的確に応じられるよう、尚一層センターの発展に努める覚悟でおります。

結びに、令和2年度事業報告にあたり、センター事業にご理解・ご協力をいただいている会員各位と、日ごろからご支援・ご鞭撻をいただいております幸手市をはじめとする、関係各位・各企業及び事業所・市民の皆様方に、衷心よりお礼と感謝を申し上げ事業報告とさせていただきます。

## II 事業の経過

### 1 普及啓発活動の推進

- ・会報紙「連絡船」第17号を発行し班長を通じ全会員に配布した。
- ・公共広告媒体等を活用し、センターのPRを継続的に行った。

## 2 会員の増強と就業開拓の促進、就業の場の確保

- ・毎月第3木曜日に、新規入会説明会を開催した。
- ・独自事業としてI会員ひとり紹介キャンペーンを実施した。
- ・公益財団法人いきいき埼玉の支援を受け、会員拡大キャンペーンを実施した。
- ・シルバー派遣事業を積極的に導入し、就業の場の確保に努めた。
- ・空き家等の適正管理に関する協定書に基づき、市と連携した管理を実施した。

## 3 安全就業の徹底と健康管理

- ・安全就業委員会を中心に、作業現場の巡回を実施した。
- ・熱中症予防研修等を実施した。
- ・屋外作業班（植木・草刈・手取り除草）を中心に会員の装備品の点検を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策に努めた。

## 4 就業に対する知識、技能の向上

- ・高度な技術・知識を持った既会員による後継者育成を推進した。

## 5 地域班・職群班、各組織の活動の推進

- ・地域班設置及び運営規程に基づき、班組織の充実を図った。
- ・職群班要綱に基づき、円滑な就業体制の推進を検討した。
- ・地域班が主体となった地域ボランティア活動に推進・協力した。
- ・倶楽部活動を推進し、会員同士の交流・趣味・コミュニケーションの充実に努めた。

## 6 運営体制の充実と事務の効率化

- ・埼玉県シルバー人材センター連合及び県内シルバー人材センターと連携して、当センターの効率的な運営に努めた。
- ・就業規則や諸規程に基づき、業務の円滑な遂行に努めた。
- ・植木剪定や除草等の見積もりは専門的に実施、その作業会員と連携充実を図る。
- ・車両や機器のメンテナンスを実施し、経費の削減を図った。

## 7 会員相互の連携、事務局との連携

- ・会員及び役職員が、一丸となりセンター運営等の充実に努めた。
- ・会員相互の連携とセンター事務局との報告・連絡・相談の励行を促した。
- ・女性会員並びに女性の就業機会の拡大や交流を図るため、「華かご会」の活動・充実に努めた。
- ・会員専用サイト「スマイル トゥ スマイル」を使用し、登録会員とセンター情報の共有と迅速な連絡を図った。